

1. 大学連携

- (ア) 大学コンソーシアム岡山
- (イ) **岡山オルガノン**
- (ウ) 倉敷市大学連携講座

2. 産学官連携

- (ア) 国：産学官連携推進会議

- (イ) 医学系大学産学連携ネットワーク（東京医科歯科大学）

- (ウ) 岡山県

- ① **岡山県産学官連携推進会議**

- (全体会議，産業戦略本部，産業戦略プロジェクト委員会)

- (ア) **岡山TLO**

- ② ものづくり重点4分野における産業クラスター形成に向けた取組

- 1.精密生産技術

- (ア) **ミクロものづくり岡山推進協議会**

- 2.医療・福祉・健康

- (ア) **メディカルテクノおかやま**

- (イ) ハートフルビジネスおかやま

- 3.環境

- (ア) 中四国環境ビジネスネット

- 4.バイオ

- (ア) セルロース系バイオマス超微粉碎技術研究会

- (イ) おかやまバイオマスプラスチック研究会

- (ウ) おかやま食料産業クラスター協議会

Organon 『岡山オルガノン』の構築

— 学生力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育 —

岡山オルガノン科目
開講案内・履修案内

学生の皆様

社会人・地域の皆様

教職員の皆様



- ▶ オルガノンの取組
- ▶ 取組状況
- ▶ 連携校紹介

川崎医科
大学の
実施事業



● 後期科目の履修受付を開始しました

第1期募集期間: 7月1日(木)~7日(水)

第2期募集期間: 9月1日(水)~14日(火)

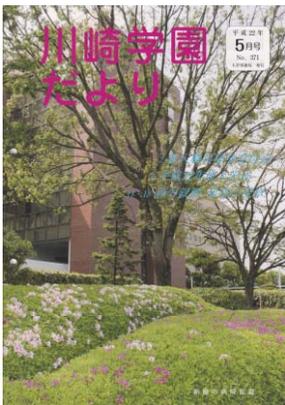
- ※ お申し込み・お問い合わせは、所属大学の教務担当へ
- ※ 詳細は、[案内のポスター](#) [PDF形式, 264KB] をご参照ください



開講科目一覧

大学名	科目名	開講期	時間割	受講形態
岡山商科大学	経営学特殊講義I	前期	月曜 4限	遠隔授業
	経営学特殊講義II	後期	月曜 4限	遠隔授業
川崎医科大学	基礎環境医学(リベラルアーツ選択II)	1学期	金曜 1限	遠隔授業
倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	後期	土曜 3-5限	遠隔授業 対面授業
	倉敷まちづくり実践論	後期	土曜 3-5限	遠隔授業 対面授業

- 大学名をクリックすると、「講義時間と他大学の授業時間の比較表」と「開講科目のシラバス」をPDFファイルで閲覧できます。
- 科目名をクリックすると、「シラバス」と「講義計画(配布資料を含む)」のページを表示します
- 時間割は提供する大学の時間割によります。



岡山オルガノン事業を実施

ライブ型遠隔授業はじまる

文部科学省平成21年度大学改革推進等補助金「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」「岡山オルガノンの構築」(代表校：岡山理科大学)が選定され、学士力，社会人基礎力，地域発進力の向上とこれらの融合による人材育成を目標として授業が始まった。

実施にあたっては，昨年9月から半年間をかけて運用の準備をし，平成22年度からネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムを活用した双方向ライブ型遠隔授業を開始することとなった。

岡山オルガノンの単位互換制度は，岡山県内15大学間で互いに学生の受け入れを行い，それぞれの受け入れ大学において修得した単位を，所属大学の単位として組み入れる制度である。平成22年度は，岡山商科大学2科目，川崎医

岡大経済学部学生
1名：受講

科大学1科目，倉敷芸術科学大学2科目の計5科目が開講される。4月9日(金)から遠隔授業が開始され，大槻剛巳(衛生学)教授，勝山博信(公衆衛生学)教授，富田正文(医用中毒学)准教授による講義が行われる。



次年度予定

1. ライブ配信授業

⇒ M2 教養選択Ⅱ
「(仮称) **個人・社会と医療考**」

2. VOD提供授業

⇒ 基礎環境医学 (今年度ライブ配信授業)

Organon 『岡山オルガノン』の構築
 — 学生力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育 —

岡山オルガノン科目 開講案内・履修案内	学生の皆様	社会人・地域の皆様	教職員の皆様
------------------------	-------	-----------	--------

大学教育の充実
岡山オルガノン

岡山オルガノンを
詳しく知る

- ▶ オルガノンの取組
- ▶ 取組状況
- ▶ 連携校紹介



川崎医科
大学の実
施事業

- 後期科目の履修受付を開始しました
- 第1期募集期間: 7月1日(木)~7日(水)
- 第2期募集期間: 9月1日(水)~14日(火)
- ※ お申し込み・お問い合わせは、所属大学の教務担当へ
- ※ 詳細は、[案内のポスター](#) [PDF形式, 264KB] をご参照ください



その他の関与

第1回 岡山オルガノンFD・SDシンポジウム

「授業評価アンケートの現状と課題」

— 15大学の実践知と問題点の共有を目指して —

平成22年3月14日[日] 12:50-16:30

岡山県生涯学習センター 情報・創作棟2階大研修室

■岡山市北区伊島町3丁目1-1 ■参加費無料 ■大学教職員、一般の方対象[定員/150名]

※当日参加も受け付けますが、定員になり次第受付を終了させていただきます。

オルガノン“organon”とは、元来「学問を構築する上で基礎となる機関・道具」という意味。
本取組では「大学教育の基礎・原動力」と解釈し、各大学が持つ特色を生かし、大学間の連携によりさらに強化していくことで、地方大学の活性化と再生を図る。



お申込み・問合せ先

「岡山オルガノン」岡山大学オフィス [岡山大学内]

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 TEL/FAX:086-251-8513 担当:遠山・小林

e-mail: okadai@okayama-organon.jp

シンポジウムへの参加

第1回 岡山オルガノンFD・SDシンポジウム

「授業評価アンケートの現状と課題」

— 15大学の実践知と問題点の共有を目指して —

プログラム

- 12:20 - 12:50 受付
- 12:50 - 13:00 開会挨拶 岡山オルガノン大学教育連携センター長 木村 宏 (岡山理科大学)
- 13:00 - 14:00 基調講演 「授業評価の性質と今後の活用」(仮題)
立命館大学教育開発推進機構 教授 安岡 高志 氏
- 14:05 - 14:20 クリッカーの活用による授業評価アンケートの“評価”
- 14:20 - 16:25 授業評価アンケートの取組状況
14:20 - 15:55 連携各大学の取組状況紹介
15:55 - 16:25 質疑応答および全体討論
- 16:25 - 16:30 閉会挨拶 岡山オルガノン岡山大学オフィス代表 橋本 勝 (岡山大学)

主催

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業「岡山オルガノンの構築」

[連携機関] 岡山理科大学(代表校)/岡山大学/岡山県立大学/岡山学院大学/岡山商科大学/川崎医科大学/川崎医療福祉大学/環太平洋大学/吉備国際大学/倉敷芸術科学大学/くらしき作陽大学/山陽学園大学/就実大学/中国学園大学/ノートルダム清心女子大学

会場案内



岡山県生涯学習センター
〒700-0016 岡山市北区伊島町3丁目1-1
TEL (086) 251-9750

- バス利用
 - ・岡電バスJR岡山駅西口から中央病院線
京山入口下車徒歩8分
(所要時間約13分)
 - 徒歩
 - ・JR岡山駅西口から約25分(約1.7km)
 - 車利用
 - ・JR岡山駅西口から約5分
 - ・山陽自動車道岡山ICから約10分
- ※駐車場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

2010.3.14.

特別講演：立命館大学 安岡先生

授業評価の性質と今後の活用

立命館大学
教育開発推進機構教授
教育開発支援センター長
安岡 高志 2010.3.14



オルガノン代表
岡山理大
木村先生



岡大オフィス遠山先生
クリッカーの実演

全15大学発表者が登壇しシンポジウム（聴衆の風景）→ 授業評価中断していることに対して、厳しいご意見を頂いた。





年齢が高くなるにしたがって、見られる傾向

理解できない言葉を多く使用する傾向がある・・・27%
話し方が単調になる傾向がある・・・・・・23%
同じことの繰り返しが多くなる傾向がある・・・・19%

書く量が少なすぎる傾向がある・・・・・・35%
まとまりのない書きかたをする傾向がある・・・・18%
早く消す傾向がある・・・・・・16%

「今の学生は聞いてまとめることができない」

授業は知識の伝達手段である傾向がある・・・・24%
学生に興味を示さなくなる傾向がある・・・・17%
質問しにくい雰囲気が強くなる・・・・・・17% 16

授業で若い教員と年齢の高い教員が異なる点

- ・生徒がどこを教えて欲しいか若い教員の方が理解している。
- ・若い教員の方が、比較的明るい雰囲気です。
- ・若い教員の方が学生の気持ちを理解しながら話してくれる。
- ・若い先生は何回も丁寧に教えてくれるが、年齢の高い先生は一回ちょっと言ったきりもう言わなかったりすることが多い。
- ・年齢の高い教員の話は意味がわからないことが多い。
- ・年齢の高い先生は、ボソボソと話したり、黒板に単語しか書かなかったりすることが多い。
- ・年齢の高い教員の授業は単調になることが多く、リズムが悪い。
- ・話題の共通性があり、若い先生の方が心が通じやすい。
- ・授業の始まる時間が、年齢が高くなるにつれて遅くなる。
- ・授業への引きつけ方が若い人の方が上手である。

全体として、若い教員の方が優しく、丁寧に、学生の反応を見ながら教えるようである。 17

授業以外で若い教員と年齢の高い教員が異なる点

- ・若い教員の方が接しやすい。
- ・若い先生は優しい。
- ・年齢の高い方が疲れている。
- ・年齢の高い教員は、なんだか自分の意見だけを主張して学生の意見を聞いてくれない。
- ・若い先生は授業以外で何か聞いてもしゃべってくれるが、年のいった先生はなんだかだるそうにする。
- ・年齢が高くなればなるほど、学生との年齢、世代が異なるため考え方が異なる。
- ・年齢の高い教員は、生徒を授業の中だけであしらい、道であっても話しかけてくれない。
- ・動作が鈍くなり、体力的なところが異なってくる。
- ・年齢の高い教員の方が、話す面白い。

全体としては年齢の高い教員は授業のみで学生と接しており、疲れているようである。 18

年齢の高い教員への学生からの提言

- ①学生の参加できる授業環境をつくれ。
- ②学生を見下すな。
- ③愚痴をこぼすな。
- ④学生の変化に対応しろ。
- ⑤略字を使うな。
- ⑥テンポが悪いぞ。
- ⑦脱線の話が面白くないぞ。
- ⑧自分だけ納得する授業をするな。



説明の工夫

1. **身近**でわかりやすいと思われる例を挙げる
2. **具体例**をいくつか用意し、段階に分ける
3. 概念を**イメージ**させて理解を助ける
4. 順を追って話す
5. **基本的な用語**は覚えさせる
6. 色々な面からアプローチ
7. 「**理屈で解る**」、「**フィーリングで解る**」の2つ
解って初めて理解
8. **大事なことは**反応には関係なく2回する
9. **ストーリー性**を持たせた説明
10. 知っている**と楽しい**と思わせる

21

基本的姿勢

1. 学生と教員双方とも楽しい
2. 90分の中で3つか4つ
3. 授業の中で8割理解
4. **人間は最初は全体像しか見えない**
5. 建学の精神に影響を受けた。後輩に伝えたい
6. 自分自身を無にして、生徒になったつもりで
7. 学生を触発して追及するように努める
8. 個人の名前はもちろん、習熟状況も把握
9. 劣等感を持っていても楽しめるように
10. 問題発見がどこまでできるか

22

あってはならない授業

- ・板書を行うだけ、学生のことを考えない、学生を見ない授業
- ・力の付かない授業
- ・古い情報を何年経っても改定しない授業
- ・知的刺激のない授業、成長が見られない、思考力が付かない授業
- ・恐怖で学生を縛る授業
- ・自分の世界に入り込み学生がついて行けない授業
- ・気分で学生をしかる、自慢話
- ・**学生のせいにする**、工夫しない、準備不足
- ・個人を認識しない授業
- ・分からない部分をそのままにする授業あつては

23

よい授業を展開する10か条

1. 私語は、授業の**初回**で厳しく禁止し、約束させる。
2. 試験は、授業で行った所しか出題しない。範囲は明確に指示。
3. 説明には**イメージしやすい身近な具体例**を、複数用いて行う。
4. 可能なものは実物を見せ、映像等を使い、視覚的に教える。
5. 社会的なマナーや礼儀、身だしなみ等、**学生の人生**についても教える。

24



6. 今学んでいる事が、実生活や社会でどう役立つか明確にする。
7. 話す声は、聞こえるように大きくゆっくりとしメリハリをつける。
8. 板書やパワーポイントは、ノートを**後で見ても分かる**構成にする。
9. 教科書の内容以外に、**教員の考えや経験**等、付加価値が必要。
10. 学生の意見や反応を知り、迅速にフィードバックする。

25

以上の結果から、授業評価の**集団としての意見や結果は信頼**してよい

主観も客観的評価と同様に必要である

達成目標によっては主観的評価でしか測定できないものもある

26

評価項目(高知工科大学)

日本で一番教員評価が進んでいる大学

- 1) 教員はこの科目の達成目標を明確に示しましたか。
- 2) 教員は学生がその目標を達成するために努めましたか。
- 3) あなたはその目標達成のために努力しましたか。
- 4) あなたはその目標を達成でき、十分な力がついた**と思いますか。**
- 5) この科目はあなたの今後の学生生活や社会生活に役立つ**と思いますか。**
- 6) この科目あるいはその関連科目が**好きになりましたか。**

教育評価式： $\Sigma[2(A-0.8)X_1X_2N_1\sqrt{N_2}]$

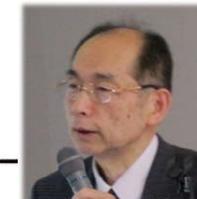
27

今後の授業評価はPDCAサイクルの中に組み込まなければならない

- 第一に決定すべきことは：「何を実現したいのか」 **具体的目標の設定**
- 第二：目的達成に「行動目標を何にするか」 **(共通認識の決定)**
- 第三：「目標達成を何で測定するか」 **評価指標の決定**
- 第四：「評価基準」 **基準の状態を決定**

28

38



達成目標の条件

- 組織がよくなる**ビジョン**が描けること
- 全組織員が目標達成の**一翼を担える**こと
- 日常の努力**の積み重ねで達成できること

やってみようと思えること

29

立命館大学のFDの定義

「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・他教学機関が掲げる**理念と教育目標**を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して、**教員が職員と協働し、学生の参画**を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について**継続的に検証**を行い、さらなる改善に活かしていく活動」

30

学生が身につけるべき**3つの目標**

- 第一目標** 卒業までの知的発達の推進
- 第二目標** 社会で活用できる知識・スキルの修得

- 幅広い教養の修得
- リーダーシップの取れる条件
- 躰

- 第三目標** 科目の理解、必要なスキルの習得

31

学生が身に付けるべき**三つの目標**

第一目標 知的発達の推進(態度)

第一段階：AかBかという思考に支配されている。この段階にいる学生は、正しい答えは一つであり、**問と答えは一組の真実**である。教員は**すべての正しい答えを知っている権威**である。

第二段階：権威者の間でも意見の一致しない領域があることに多く出会い、**誰もはっきりした答えを持たないテーマ**があると気づく。

第三段階：**学生が確固たる証拠とそうでない証拠の区別を学ぶ。**

第四段階(最終局面)：**独自の分析に基づいて、さまざまな主題について自分自身の立場**を取り始める

32

学士力：単位互換などの授業

ライブ型遠隔授業推進 の連携取組

離れた場所でも授業に参加！

今年度から岡山オルガノン連携大学で開始したライブ型遠隔授業。もっと円滑に進め、より充実させていくためのシンポジウムを行います。

●遠隔授業に関するシンポジウム

日時 12月～2月開催予定 ※時間・場所は未定

⇒ 本学のカリキュラムや試験制度などで関係で、本学学生の字受講は難しい！



シンポジウムなどには参加。

また、発信は継続予定。

地域発信力

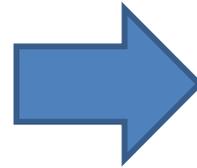
エコ啓発活動 の連携取組

家の電気を一斉に消そう！

夜8時に消灯可能な電気を一斉に消し、またマイカー／マイバイクでの通勤通学を控え、みんなでエコについて考えます。家族や友だちと☆一緒に取り組んでみてください。

●エコナイト

日時 7月7日(水)夕方～ 場所 連携大学



試験・実習中であること、附属病院の体制などもあって参画は困難（福祉大は参画）。



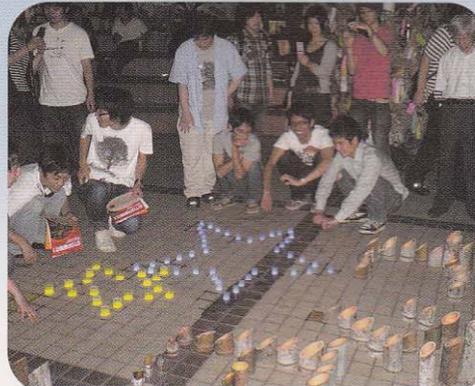
シンポジウムなどには参加！



地域活性化シンポジウムとエコナイトの開催

地域の活性化を地域住民との交流を通して考える「地域活性化シンポジウム」を連携校で協働して開催します。また環境啓発活動の一環として「エコナイト」を開催し、夏の夜にしばし消灯し、環境について考えます。

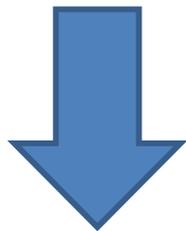
これらのイベントは学生のみなさんの積極的な参画により、学生のみなさん自身の地域に対する理解を深め、地域貢献活動を展開することができ、地域活性化の担い手として活躍できる人材を目指すことができます。



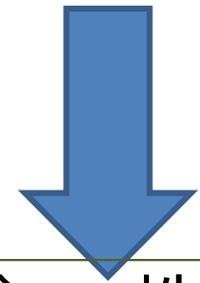
共同FD・SD活動の展開

FD (Faculty Development) 活動は、大学教員の指導力・教育力の向上を目的とした活動であり、新たに連携校間で多様な分野の教員同士が相互に公開授業参観・授業評価を行い、担当教員と参観教員が協議できる活動を進め、連携校全体の教育手法の改善に役立てます。

また、SD (Staff Development) 活動は、大学職員の学生サービス力・大学運営力の向上を目的とした活動であり、「学生相談」「授業改善」「キャリア支援」等毎回テーマを絞り、各連携校の様々な担当者が積極的に受講できるようにし、連携校の学生サービス向上と教職員同士が交流する機会を増やすことにつながります。



シンポジウムなどへの参画



キャリア形成教育推進に関連しては、
学生全員が医師を目指すという特殊
性の中で、なかなか共同は困難。
企画への参加を医師要請の中で、ど
のようにトランスレーションする
か？